

**平成30年度第三期特別支援教育専門研修において  
肢体不自由教育専修プログラムを受講する方へ**

**1. 講義に関連する資料の準備について**

以下の講義に関連した資料について、それぞれ準備の上、ご提出ください。

開講日当日に提出いただくものと講義の際に持参いただくものがありますので、ご留意ください。

なお、いずれの資料も本研究所の研究活動推進のための参考資料として活用させていただく可能性もありますので、ご承知おきください。

**開講日当日に提出いただくもの**

**(1) 「小・中学校における肢体不自由教育—特別支援学級の実践を中心に—」及び「小・中学校に在籍する肢体不自由児の学びを支援する特別支援学校のセンター的機能」協議資料**

上記2つ講義の中で、研修員の勤務校における小・中学校との連携や支援の現状と課題を基にグループ協議を行いますので、以下の資料を各自ご持参ください。

**①別紙様式に沿った協議資料（紙媒体1部及びCD等に保存した電子媒体1部（※PDF可））**

様式1「小・中学校における肢体不自由教育—特別支援学級の実践を中心に—」及び「小・中学校に在籍する肢体不自由児の学びを支援する特別支援学校のセンター的機能」協議資料

※様式の電子ファイルを希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

**②協議の際に補助となる資料（※もしあれば）**

勤務校のある地域の小・中学校(特別支援学級)や、勤務校と小・中学校との連携や支援に関する資料があれば、紙媒体10部、及び可能であればCD等に保存した電子媒体1部をご持参ください。紙媒体1部と電子媒体は**開講日に提出**いただき、残り9部は講義の際に持参してください。

**(2) 「肢体不自由教育の歴史」**

学校要覧等、勤務校及び地域での肢体不自由教育の歴史が分かる資料を2部ご持参ください。うち1部は**開講日に提出**し、もう1部は、講義の際に持参してください。

**2. 講義に関連する教材等について**

**(1) 「肢体不自由教育における教材・支援機器の活用—教材制作—」では演習(実習)が中心となります。必要な機材やテキスト、工具等は用意しますが、教材代の実費(5,000円程度)がかかります。**

作ったことのある人もいると思いますが、今回の演習は作る事を通して「どのように研修を運営するか」ということを主眼に考えています。また、作った後の活用するための協議も大切だと考えていますので、ご理解の上、参加していただきたいと思います。

**(2) 「重い障害がある子供の Person-Centered Planning に基づく教育実践」では、図書『ぱれっと (PALETTE)～子どもが主体となる教育計画と実践を目指して～(ジアース教育新社)』を使用します。お持ちの方は、ご持参ください。お持ちでない方には、当日貸し出します。**

＜本件に関する連絡先＞

肢体不自由教育専修プログラム 運営代表

情報・支援部 北川 貴章

(E-Mail:t\_kitagawa@nise.go.jp Tel:046-839-6809(直通))